

鳥取市議会本庁舎跡地等活用に関する調査特別委員会 （第6回）会議録

会議年月日	令和元年6月5日（水曜日）		
開 会	午前10時0分	閉 会	午前11時23分
場 所	市役所本庁舎6階 第1会議室		
出席委員	委員 長	岡田 信 俊	
	副委員 長	勝田 鮮 二	
	委 員	加嶋 辰 史	米村 京 子
		吉野 恭 介	朝野 和 隆
		上杉 栄 一	岩永 安 子
			平野 真理子
欠席委員	なし		
委員外議員	なし		
事務局職員	事務局次長	森山 武	議事係主事 橋本圭司
出席説明員	<p style="text-align: center;">【総務部】</p> <p>総務部長 河井登志夫 財産経営課長 永井利幸 財産経営課資産活用推進室長 戸田昭弘 財産経営課課長補佐 中村和範 財産経営課主査 福井一郎 財産経営課資産活用係長 宮谷卓志</p> <p style="text-align: center;">【企画推進部】</p> <p>企画推進部長 高橋義幸 政策企画課長 塩谷範夫 政策企画課課長補佐 平田政志</p> <p style="text-align: center;">【都市整備部】</p> <p>都市整備部長 網田 正 中心市街地整備課長 有本公博 中心市街地整備課課長補佐 有元薫治</p>		
傍 聴 者	別紙のとおり		
会議に付した事件	別添資料のとおり		

◆平野真理子 委員 私もただ単に、拙速に、何もないのに、資料も何も説明もないのに、解体というふうに言っているのではなくて、例えば今までこの特別委員会で資料提供を求めて、さまざまな資料をいただく中で勉強させていただきながら、ここは解体撤去して、次のまちづくりビジョンを市民の皆様にご意見を聞かせていただいて、それをまとめていただくことが重要ではないか、それが一番いいのではないかと考えています。例えば、平成31年3月15日特別委員会資料1というのにも、現本庁舎等跡地活用に関する市の庁内調整会議についてという中で、執行部の説明の要旨が書かれています。また、現本庁舎取り扱いについての比較表というので、解体撤去、減築、現状維持の場合、減築なしというのの安全性とか、費用とか、活用に当たっての意見も出されていますので、このことを踏まえて、私たち特別委員会で検討を進めるということは拙速ではないですし、委員長もおっしゃっているように、6月の議会にはきちっと特別委員会の意見を報告するという必要だと考えます。

◆岡田信俊 委員長 岩永委員。

◆岩永安子 委員 当局は、解体を検討すると、それは議会が決めないからだというふうに言われたんですが、解体を検討する、その検討する一つの方法、意見として、議会がどう考えるのかということがあるかもしれません。ですけど、私は、この建物を解体するにしろ、しないにしろ、やっぱりここで耐震改修してほしいという市民の思いがあったわけで、それを方針を変えて、そういう願いを聞きながら、新築移転するわけですよ。なので、議会としてやっぱり、市民にここをどうしましょうかということは、今の状態から、それこそ当局も責任を持って、市民に問うていくという立場が必要じゃないかと思うんです。そういうことをしながら、議会は結論を出していけばいいんじゃないかと私は思います。

◆岡田信俊 委員長 上杉委員。

◆上杉栄一 委員 当然だと思います、それは。ただ、今の話の中で、ここを耐震改修して残してほしいという意見があるという話もあったんだけど……。

◆岩永安子 委員 それは、前の。

◆上杉栄一 委員 前のね。それは、いろんな意見があります。だから、その話はその話として、スタートに立つのは、やはりこの、さっきも言いました減築で残すか、解体撤去をして考えるかという、この2つの今選択になつとるわけですね。ですから、減築について、先ほどどれぐらいの費用がかかる、あるいは減築をするためには何らかのこれから方向性を出していかないとあかんということですけども、それが、じゃあ具体的に、これは議会なり委員会がその使用目的を決めるという話じゃないわけですね、我々としてはとにかくスタートラインに立ちたい。それは、減築なのか、それから解体撤去なのかということです。市民にとってどちらのほうが、市民の代表とした議会あるいは議員としてどちらを選ぶかという話になつとると思うので、これは今さら、じゃあ、市民の皆さんにここに、これは前回、前々回も言ったんだけど、減築しておくのがいいのかなのかというようなことを問いますかということは、これは、我々は市民から負託を得て出るとる議員なわけだから、だから、この委員会の中でしっかり責任を持って、自分の言動に責任を持って判断すればいいというふうに思ってるので。だから、後の活用方法については、広く市民の意見を聞く必要あるけども、これを残すか、あるい

は解体するかについては、市民の意見を聞いて、それで決めるような話は、県の美術館の二の舞になるような気持ちがあつて、私はそれには賛成できない。

◆岡田信俊 委員長 そのほか御意見はございませんでしょうか。岩永委員。

◆岩永安子 委員 なかなか一致できないところかもしれないんですけど、解体にも大きなお金がかかります。今、減築の、それこそ⑥とか⑦とか、入っていません。耐震診断も壊すんだつたら要らないかもしれないですけど、解体するのにもすごく大きなお金が要ります。減築をして4階建てにするのか、それこそ用途によっては2階建てでいいのかとか、いろんなことが本当はあるんだろうと思うんです。ただ、用途が決まっていない、何に使うのかということが決まっていませんから、減築の費用なんか出せないというのは、比べられないということはあると思うんですが、壊しました、さあ、何をつくりましょうということこそ、私は無責任じゃないかというふうに思うんです。今ある今の状況を、別にこの状況があつたって、この建物の状態があつても、いろんな、どうしていきましようかということを開うていくことはできるわけで、だけど、議会在が解体を決めました、それを受けて当局がどうかすると発表すると、動き出すという流れがあつて、その中で、市民の皆さん、解体が決まりました、どうしましようかというふうにしてしまうのは、違うんじゃないかと。本当に市民参加で、この周辺のまちづくりをどうしていくのかということを考えるときには、今からそれはかかれることで、このままの状態であってもできることじゃないかと私は思います。

◆岡田信俊 委員長 平野委員。

◆平野真理子 委員 私は、ここの現本庁舎を解体することをどうするかを決めることは、市民に対して無責任なことではないというふうに考えます。同じく、じゃあ耐震改修にしましようかとしても、それも何も決まっていないことですので、同じ段階ですから、無責任にはならないと思います。

◆岡田信俊 委員長 上杉委員。

◆上杉栄一 委員 平野委員と同じ意見なんだけど、建物を残す意義が何があるかというのが私はよくわからない。先ほど、スペースがとれる、じゃあ、そのスペースをとれた中で、じゃあこの活用方法を決めましようかという話でしょう、要するに。(発言する者あり)いやいやいや、そうじゃなくて、要するに。となつてくると、建物があるがために、いろんなそれこそ意見があるけども、この建物を減築したのために選択肢が非常に狭まってくるわけです。それからスペースも狭い。その中で、じゃあ考えましようというのは、逆に言うと、市民の選択肢を狭める話になつちゃうと思うんです。

◆岡田信俊 委員長 岩永委員。

◆岩永安子 委員 その減築をして、減築をしてからとかということではなくて、解体を決めて、どうするかということを開うということは順序が違うんじゃないかと私は思うんです。済みません、だから、6月のこの段階で解体しますと議会在が決めてしまわずに、むしろ、当局はちゃんと市民の皆さんに、減築も含めて、解体も含めて、意見を開うて、どうしていくのかということを開うて、どうしていくことじゃないかと私は思います。

◆岡田信俊 委員長 吉野委員。

午前11時23分 閉会

鳥取市議会委員会条例第28条第1項の規定によりここに署名する。

本庁舎跡地等活用に関する調査特別委員長

岡田信俊